

平成25年度（2013年度）

学級集団分析手法の活用のありかた に関する研究

一人ひとりが安心して学べる学級集団づくりが学校生活の基盤である。その学級集団づくりの方法の一つとして、学級集団の状態や、児童生徒の意欲や満足感などをアンケートなどで客観的に測定・分析し、その状況に応じた指導をしていくことも重要である。分析にあたっての課題や校内での活用の進め方を研究することとする。

<研究員>

山田 陽亮	箕面市立箕面小学校	寺尾 篤二	箕面市立第一中学校
東 めぐみ	箕面市立萱野小学校	辻 拓真	箕面市立第二中学校
杉本 靖代	箕面市立北小学校	津田 智弘	箕面市立第三中学校
常塚 史織	箕面市立南小学校	岡野 豊稔	箕面市立第四中学校
矢吹 加世子	箕面市立南小学校	信貴 真啓	箕面市立第四中学校
磯野 佐千子	箕面市立萱野北小学校	鎌戸 寿美	箕面市立第五中学校
佐藤 美和	箕面市立東小学校	山室 学	箕面市立第六中学校
松尾 仁美	箕面市立西南小学校	居場 大輔	箕面市立第六中学校
吉川 喜久子	箕面市立萱野東小学校		
上田 敦子	箕面市立萱野東小学校		
漁士 真理子	箕面市立中小学校		
川端 有美	箕面市立中小学校		
重本 佳代子	箕面市立西小学校		
福田 由香里	箕面市立西小学校		
前澤 鮎子	箕面市立豊川南小学校		
山田 仁美	箕面市立とどろみの森学園		
森田 耕治	箕面市立とどろみの森学園		
田中 麻記	箕面市立彩都の丘学園		

はじめに

学級集団づくりの方法の一つとして、学級集団の状態や、児童生徒の意欲や満足感などをさまざまな分析手法を学ぶとともに、箕面子どもステップアップ調査、i-check を使って客観的に測定・分析し、その状況に応じた指導をどのように校内で活用するのかについて研究した。

I 研究テーマの設定について

i-check の分析法について
校内での分析活用について

II 検証経過

- 5月26日 第1回研究部会「今年度の研究の方向性について」
- 6月19日 学級分析手法の活用について（研修）
（講師） 奈良教育大学 粕谷 貴志准教授
児童生徒理解と学級集団分析についての理解を深めるために
平成24年度夏季研修で、「学級集団分析の活用について」
- 7月10日 第3回研究部会「各校の取組を交流」
分析で必要なこと
・自己肯定感の回答
リーダー格の児童生徒
「おとなしい」児童生徒
同グループ内の児童生徒の回答バランス
- ※第3象限の児童生徒だけでなく上記の子どもたちの分析も大切

9月18日 第4回研究部会
各校の取組の交流

10月16日 第5回研究部会
各校の取組の交流

11月20日 第6回研究部会
3グループに分かれて、資料の分析をして、活用のしかたを検討し、粕谷准教授から講評をいただいた。

資料 散布図推移表(サンプル版)

グループ1 小学校

個別のデータを先に検討

⑨女子のポイントがさがっている→散布図を見る→右上から真ん中への移動

※ この変化について、クラス、学年、教職員の情報共有が大切

④男子はポイントがあがっている

※ この変化についても、何がよかったのか、取り組みの成果についても情報共有する

集団レーダーチャートで、「学級の絆」が落ちていることにも注意する

今までの取組の点検をする

2回目の i-check の結果が返却されてからは、年度末まで2ヶ月ほどである。学年、学校全体で情報共有をして、その2ヶ月の取組を全体で進めていく。

活用法について

1 個人のデータをきちんと見る

2 その後 集団を見る

※ レーダーチャートの全国平均値の見つけ方、位置取りがわかりにくい。

そのため、このチャートだけではよくなっているのかがわからない。

グループ2 小学校

学級適応感や、自己肯定感の個人データで、特にポイントが変化した子どもについての分析をすること。

向上した理由や低下した理由を、情報共有し、検討する場を持つことが大切である。

※ レーダーチャート、散布図の全国平均値の見つけ方、位置取りがわかりにくい。

グループ3 中学校

散布図の比較において、単に右上に推移しているのも、それを良しとしていいのかがわからなかった。

レーダーチャートでは、「学級の絆」が落ちているので、要因について検討する必要がある。

分析をする際の注意点

1 個別の理解

変化の大きい児童生徒の把握・・・どのタイプの子どもが変わったのか
リーダー、正統派、「しんどい」子ども
ルール違反をしている子ども

2 集団の把握

どのタイプの子どもが「適応感」がいいのか

3 分析は一人だけではなく複数で共有する

子どもたちの苦しさと教職員の苦しさが共有できるように

※ 事例検討をおこなう

ルールとリレーションで集団を見ていく

【活用法として】

- ① 散布図の推移を確認
- ② 個人のデータの変化を確認、分析
- ③ 学年で検討、共有(散布図およびリーダーチャート)
- ④ 学校全体で共有

※ ルールとリレーションの視点で

12月11日 第7回研究部会

グループに分かれて、サンプル資料で分析

分析にあたってのポイント

【アセスメントの視点を共有する】

- ・何のために分析を行うのかという目的の共有
- ・子どもの状態、集団の状態を多面的に知り、よりよい方向に向かえるための具体的手立てをチームで考える。
- ・教師の力量の評価ではない
- ・スタート段階の学級の質は必ずしも均等ではない。
- ・課題の大きい子、難しい子をいっぱい抱えていたら、学級がしんどくなることもある。
- ・学年が上がればあがるほど、低学年から積み重なった課題も大きくなる。短期間に子どもや集団が変わるものでもない。

【対応策を共有することが大切】

- ・子どもの援助ニーズの共通理解
- ・教師の支援量の総体の共通理解 ⇒「苦しさ」をみんなで分け合う
- ・方針の共有を協働で形成する

【対応策のアイデア】

- ・子どもの実態、子どもと先生との関係をもとに具体策をブレーストーミングし、最後は「担任」を選ぶ。
- ・例えば、リーダー的な子どもが不在で、リレーションが形成されていない。グループで関係が閉じている場合⇒学年行事を打つ
- ・担任との関係で、子どもはもっと認めてほしいと思っている ⇒担任は苦しんでいるところでもある。いろいろなメンバーが子どもに声をかけたり、関わることで子どもが満たされていく。
- ・発達の課題がある場合⇒保護者をSCやセンターにつなぐ
- ・クラス単位ではなく、学年全体・学校全体でルールをつくる。がんばっているけど、苦しくなったんだよねという立ち位置で子どもと関わる。
- ・「いいところをみているよ」ということが子どもや保護者に伝わるような工夫をする。
- ・「みんなで見ていく学校」に転換することがポイント
- ・担任が指導しても指導が入らないという子どもに、いろいろな人から多重に声をかけることが必要。そのためにも情報の共有と共通認識が必要
- ・「子どもがそれほど苦しい」「先生がそれほどしんどい」ということを共通認識する。
- ・「限界」を認識することも必要。⇒学年がすること、支援チームのメンバーの選び方、それ以外の人は何ができるのか
- ・何よりも、崩れる前に手を打つことが必要。例えば、「子どもの良さをみる研修」を実施している学校もある。

1月22日 第8回研究部会

分析後の取組交流

2月19日 第9回研究部会

まとめ

III 研究内容 試案作成

眞面子どもステップアップ調査

i-check アンケート 2 回目の結果分析方法について（試案）

学級集団分析手法のありかたに関する研究部会

【学年チームで検討する】

I. 個別の子どもの理解とサポート策の検討

- ① 下の「自己肯定感」「学級適応感」及び「合計ポイント」の個別推移表から変化の著しい子どもをピックアップする
 - ・低下が著しい子
 - ・向上が著しい子

- ② 1 回目と 2 回目のクラスの「学級適応感」×「自己肯定感」の散布図を対比し、集団の中での位置の変化をみる

- ③ なぜ、この子たちがこのように変化したのかを考える

- ・アンケート結果だけに頼らない
- ・関わる教職員からできるだけたくさんの「情報」を集める
- ・特に気になる子の場合は個別回答分析用ワークシート（夏休み配付）でどのように答えているのか調べる

※ワークシートは下のフォルダにもあります。

眞面市共通→02 教育センター関係→04 教育研究→学級集団分析研究部会



- どういうタイプの子もたちが変わったのか。
（例）リーダー層、課題のある子、おとなしい子…。
- 変化した子に共通の特徴があるのか、人間関係はどうか
- どういう働きかけ、取り組みをしてきたのか（特に向上した子について）

- ④ 個々の子どもへの対応について具体策を考える（特に低下が著しい子を中心に）

II. 集団の状態の把握とサポート策の検討

～ルールとリレーションの状態がどうなっているかという視点で集団を分析する～

- ① 学級のレーダーチャートの変化を見る

- ・ **ルール** — 「対人ストレス」「いじめのサイン」「規範意識」の項目で見る
→この項目が改善→ルールが守られるようになった
- ・ **リレーション** — 「友だちのささえ」「先生のささえ」「自己肯定感」「思いを伝える力」「学級の絆」の項目でみる
→この項目が改善→リレーションが形成されてきた

② 分布図や一覧表を見る

一覧表

- ・学級の傾向としてどの質問に▼が多いかを確認する

分布図

- ・分布図の縦軸・横軸に全国の平均値の縦・横の線を入れる
- ・それぞれのタイプ別の子どもたちがどの位置にいるのかを確認する
(例) リーダー、正統派、しんどい子、ルール違反をしている子、おとなしい子等

③ 今までの取り組みを振り返る

- ・なぜ、よくなったのか
- ・なぜ、しんどくなったのか(何をしたから、何をしなかったから)

※必ずしも、下がったことが悪いわけではない。関わるようになったから下がることもある。例えば、もめたところだから、今、その取り組みの最中など

④ これから何をすることができるかを考える

【学校全体で共有する】

I. 特別大きな課題がない場合

- ・個々の学級、学年の今後の取り組みを学校全体で共有する

II. 集団への支援の必要な学級がある場合

～別途、「学級支援」のためのチーム会議(校内支援委員会等)をもつ～

① 拡大学年委員会等、「学級支援」のための会議をもつ

② 対応策を具体的な行動レベルで考える

- ・学級集団で生じているマイナスの影響から子どもたち、担任教員をサポートする

子どもへのサポート

- ・心的外傷への対応
- ・学習する権利の保障～学級分割、T. T.、個別対応など

担任へのサポート

- ・メンタル
- ・取り組める役割の設定(自己有用感)

学級の再組織化

学級集団に必要なもの

☆ルール

規律

- ・みんなで決めてみんなで守る
- ・だれもが居心地がよく、だれもがやる気の出るような学校生活を送るためにつくって守っていく
- ・行動の仕方がわからないとトラブルに

☆リレーション

- ・かかわりがあること
- ・互いに構えない、ふれあいのある本音の感情交流がある状態

粕谷准教授 6月部会講演より

ルールとリレーションの目安

<ルール>

5. 内在化。教師の指示がなくても注意し合う
4. 教師の指示が少なくてもほぼ適切に行動
3. 教師が指示すれば行動する
2. 教師の指示に従うが時間がかかる
1. 反発があり教師の指示が通りにくい

バラツキが大きい・二極化・まじめな子どもの被侵害

<リレーション>

5. 親和的。全体で本音の交流ができる
4. 多くが誰とでも交流できる
3. それぞれ仲がよい。グループ内に閉じている
2. 不安で形成された小グループと孤立
1. グループ間対立・孤立・裏面交流・防衛的

バラツキが大きい・二極化・まじめな児童生徒の承認感低い

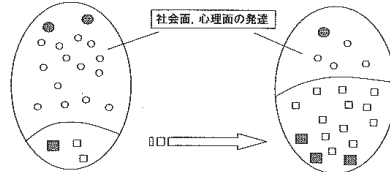
河村茂雄「Q-U事例検討会・学級づくりアセスメント・対応策シート」

学級集団分析手法の活用のあり方に関する研究

奈良教育大学大学院 教職開発講座
准教授 粕谷貴志

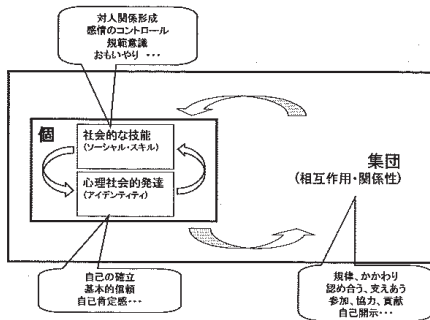
学級集団の現状と課題

- 発達のバラツキが大きい
- 教えるだけでは難しい児童生徒の増加
- 集団になることが難しい

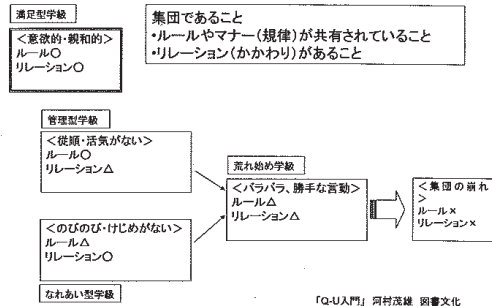


「発達援助」を含む指導援助が求められる実態
個別と集団の両方の理解が必要

学生の変化と発達の課題

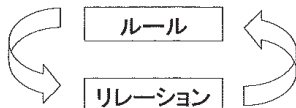


学級集団の変化のプロセス



ルール(規律)とリレーション(関係性)の視点から 教育力のある学級集団の育成

- ・ ルールの形成
一生徒同士が安心してかかわることのできる、集団に必要な最低限のルールやマナーを共有する。
- ・ リレーションの形成
一本音や感情の交流がある関係をつくる。



ルールとリレーションの目安

- | | |
|--|---|
| <p>＜ルール＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 反発があり教師の指示が通りにくい 2. 教師の指示に従うが時間がかかる 3. 教師が指示すれば行動する 4. 教師の指示が少なくともほぼ適切に行動 5. 内在化。教師の指示がなくても注意し合う | <p>＜リレーション＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ間対立・孤立・裏面交流・防衛的 2. 不安で形成された小グループと孤立 3. それぞれ仲がよい。グループ内に閉じている 4. 多くが誰とも交流できる 5. 親和的。全体で本音の交流ができる |
|--|---|

バラツキが大きい・二極化・まじめな子どもの被害
バラツキが大きい・二極化・まじめな児童生徒の承認感低い
河村茂雄 「Q.U事例検討会・学級づくりアセスメント・対応策シート」

ルールとリレーションの視点からの集団育成

- | | |
|--|---|
| <p>＜ルール＞</p> <p>教師の指導性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師側の願い、思いを表明 ・きめ細かいPM機能(PM理論)の発揮 ・教示、説得型のリーダーシップ ・教師主導の活動を多くする ・教師と児童生徒との関係づくり ・ストローク <p>ルールの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師主導でルールを持ち込む ・児童生徒がルールをつくる(他律→自律) ・ルールを守る活動を繰り返す ・ルールを守る行動を強化する ・ルールを守る行動の外堀をうめる | <p>＜リレーション＞</p> <p>不安、緊張の低下に効果的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム等、身体をつかった活動 ・教師の活動への参加、自己開示 ・雰囲気作り <p>承認感の向上に効果的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が認める ・児童生徒同士が認め合う ・活躍する場面 ・発達課題に対応した承認 <p>リレーションの形成に効果的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割交流 → 感情交流 ・ソーシャルスキルの学習 ・自己開示の促進 ・共有体験 |
|--|---|

ストロークへの欲求

- ストローク: 心の栄養、愛、あなたがそこにいるのを私は知っているという存在認識。人は陽性のストロークが不足してくると、陰性のストロークを集め始めるという習性を持っている。(E. Berne)
- ・言語的なストローク...言葉によるストローク
例)「よかったね」「ありがとう」など
 - ・非言語的なストローク...言葉にならない身振り、手振りなどによるストローク
例)うなずく、握手する、頭をなでるなど
 - ・陽性のストローク...相手が気持ちよよいと感じるもの
 - ・陰性のストローク...相手が心や体の痛みとして感じるもの
 - ・無条件のストローク...相手の「存在」に対して与えられるストローク
例)「子どもはかわいい」「君はすばらしい」
 - ・条件付きのストローク...相手の「行動」に対して与えられるストローク
例)「数学のテストで100点取ったのは素晴らしいね」「種がきれいだから好きです」
- ストロークの法則
- ・無条件に陽性のストロークを得ている限り、人の心は安定している。
 - ・陽性のストロークが不足してくると、人は陰性のストロークを集め始める。
 - ・条件付きのストロークばかりを得ていると人は陰性のストロークを集め始める。
 - ・陰性のストロークを集めれば陽性のストロークが与えられない限り永遠に続く。
 - ・ストロークがないことは人にとって最大の値引き(ディスカウント)である。

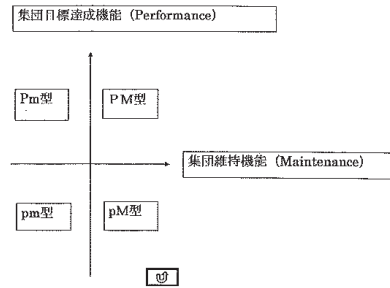
児童生徒に必要なソーシャル・スキル

配慮のスキル	かかわりのスキル
<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な挨拶 何か失敗したときに「ごめんなさい」と言う。何かしてもらったときに「ありがとう」と言う ●基本的な感情態度 友達のままな顔はひややかさないで聞く。友達が話しているときはその話を最後まで聞く ●会話への配慮 友達の気持ちを考えながら話をする。相手が聞かないように話をしない 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な話す態度 相手に聞こえるような声で話す。みんなと同じくらい話をする
<ul style="list-style-type: none"> ●集団生活のマナーの順守 みんなで決めたことには従う。病の仕事を最後までやりとげる ●集団行動 指定された場所へ一定懸命やってみる。友達同士でいて、誰か困った時も「カッパ」として助産を助ける ●自己主張 自分の意見を言う。自分の考えを伝える。ほかの人に左右されないで自分の考えで行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ●集団への積極的な参加 みんなのためになごとは自分で見つけて実行する。友達が楽しんでいるときにもっと楽しめるように盛り上げる
<ul style="list-style-type: none"> ●対人関係のマナーの順守 友達との約束を守る。友達の秘密は守っている ●反社会的態度 友達とケンカしたときにも悪いところがないか考える。何かを頼んでくれるときに相手に迷惑がからないか考える ●集団的行動 自分から友達を助ける。初めから仲間に入れてもらう。友達が困ったときに手を貸す。友達が困ったときに手を貸す。友達が困ったときに手を貸す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●感情表現 嬉しいときは笑顔やガッツポーズなどの身振りや表情で気持ちを表す。悲しいときは涙を出して泣く ●自己主張 自分の意見を言う。自分の考えを伝える。ほかの人に左右されないで自分の考えで行動する ●対人関係の形成 自分から友達を助ける。初めから仲間に入れてもらう。友達が困ったときに手を貸す。友達が困ったときに手を貸す。友達が困ったときに手を貸す。

河村茂雄編著「グループ体験による学級集団育成プログラム、小・中学校版」図書文化

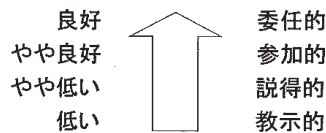
教師のリーダーシップ (PM理論)

(三橋二不二 1966)



集団状況と教師のリーダーシップ

集団のルール・リレーション リーダーシップ

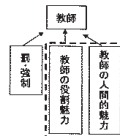


河村茂雄編著「グループ体験による学級集団育成プログラム、小・中学校版」図書文化 (参考: Situational Leadership Theory; P. Hersey & B. Blanchard 1977)

教師の勢力資源

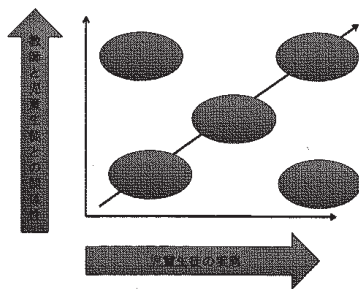
権威性(教師に対する好意、目標としたいなど)	「先生のようにになりたい」「好き」「あたいが」
親近・受容性(親近感、被受容感など)	「よく話しかけてくれる」「気軽に話しやすい」「気持ちよくなる」
熟練性(教え方のうまさ、専門性など)	「いいことを知っている」「興味をひく話をしてくれる」「一生懸命教えてくれる」
正当性(正しさ、信頼、社会的地位にもとづく)	「言うことは正しい」「なるほどと思う」「信頼できる」
明朗性(性格的な明るさ、かかわると楽しい)	「面白い」「輝かしくて明るい」「元気でほつたついている」
罰・強制性(罰せられる、評価に影響する)	「成績にひびく」とても厳しい

小学校	教師の魅力 罰・強制性	親近・受容性、熟練性、正当性、明朗性 罰・強制性
中学校	教師の人間的魅力 教師の役割魅力 罰・強制性	親近・受容性、導引性、明朗性 熟練性、正当性 罰・強制性
高校	教師の人間的魅力 教師の役割魅力 罰・強制性	親近・受容性、正当性、導引性 熟練性、明朗性 罰・強制性



「教師のためのソーシャル・スキル」編纂委員(河村, 2002)

実態に適合した実践



調査法活用の留意点

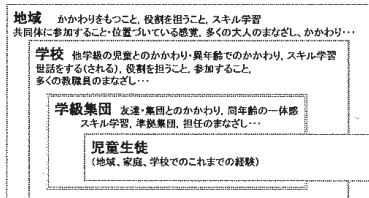
- 観察法、面接法、調査法の中のひとつの方法として
- 「可視化」と「能視化」(「ゆりかごに学ぶ教育の方法」吉田章宏)
- データを資料にして情報を集める
- 数値データだけでなく反応の意味を見る
- 解釈、了解可能であることを大切に
- 教師の力量の評価でないことの確認

調査法活用の意味とは

- 児童生徒と集団状態を理解する資料を得る
- 児童生徒の援助ニーズの共通理解
- アセスメントの視点を共有する
- 対応策のアイデアを共有する
- 教師の支援量の共通理解
- 方針の共有と協働の形成

教職員集団形成、学校づくり、実践創造のために

児童生徒の発達を保障する集団づくりの視点



「個別の援助」+「集団の中で個が育つ援助」
「人のかかわりの質と量」の保障のための学校体制
アセスメントによる共通認識の形成から協働へ
幼保・小・中の発達援助の積み上げによる発達の保障
地域、家庭、学校の連携

IV 研究のまとめ

今年度初めて、i-check を2回実施して、年間の学級集団の状況を分析する機会ができた。機会にはできたが、個々の児童生徒の分析、学級集団、学年集団そして校内での検討については初年度ということもあり課題も多くあった。

学級集団分析手法のありかたについての概論は、研修講師を招いて活用法を学ぶことができたが、i-check の具体的な活用のあり方については継続して研究を続けることにより、校内で取組を進めることが必要である。次年度では各校での分析会議の状況も交流しながら活用法を研究していくこととする。

「クラスの概要」の見方

質問項目一覧

規律と他者の尊重

- 6) 学校のきそくや、クラスで話し合ってきたことを、守っていますか。
- 23) 話し合いをしているときや、友だちの相談にのっているときは、相手の話を最後まで聞いてから発言するよう、気をつけていますか。
- 24) あなたは、友だちの表情などから今の心を思いやり、自分だったらどうしてほしいか、それをよく考えてから行動する方ですか。
- 30) クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できる方法を考え、提案する方ですか。
- 31) あなたのクラスでは、みんながそれぞれ得意な仕事を、責任をもってしていますか。
- 32) あなたのクラスでは、みんなが先生の言うことを守っていますか。
- 33) クラスの人からざけたり、おしゃべりをしたりして、授業に集中できないことがありますか。
- 35) クラスの中で、だれかがかまっているとき、みんなで、その人を助けてあげよう、ほめてあげようとするふんいきが、あなたのクラスにはありますか。
- 57) クラスや部活で、準備がされたり、からかわれたり、いやなことをしつこく言われたりすることがありますか。

クラスの言葉の力

- 14) あなたががんばったとき、友だちから、がんばったね、すごいねと、ほめてもらったことがありますか。
- 16) 自分ががんばったとき、くやしかったとき、それを言葉やからで表す方ですか。
- 17) 友だちが成功したときはいっしょに喜び、失敗したときはいっしょにくやしがる、その思いを言葉やからで伝える方ですか。
- 27) だれかと友だちになりたくなったとき、自分の方から話しかけて、きっかけをつくることは、得意な方ですか。
- 28) 自分の方が悪かったと思ったときは、すなおにあやまっていますか。
- 29) 友だちとけんかをしてしまったあと、仲直りするのために、自分から行動する方ですか。
- 37) 先生はクラスのみんものことを、ほめたり、はげましたりしてくれますか。
- 39) あなたは、クラス委員の、一人ひとりのいいところを、言葉にして言うことができますか。
- 41) クラスや友だちの場で、話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言する方ですか。
- 42) クラスの多くの人や仲のいい友だちと意見が違ってても、自分が正しいと思ったことは、それを主張することができますか。

自己肯定感

- 11) 勉強、スポーツ、習い事、しゅみなどで、今がんばっていることがありますか。
- 12) 将来、あんな人になりたい、こんな事したい、こんな仕事したい、夢や目標がありますか。
- 13) 自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。
- 14) あなたががんばったとき、友だちから、がんばったね、すごいねと、ほめてもらったことがありますか。
- 15) 自分なりにがんばったことを、先生がほめてくれて、うれしかったことがありますか。
- 19) 勉強や運動、クラブ、習い事、しゅみなどで、自分なりに自信をもっていることがありますか。
- 20) 自分には、いいところがあると思いますか（思いやり、明るさ、まじめさ、まよきんさ、責任感、努力、など）。
- 21) あなたはクラスのみんなから、よく注目されるタイプですか。
- 44) 家は、あなたが努力してがんばったとき、それをほめてくれますか、みとめてくれますか。（※家は、今いっしょに生活している人を指します）
- 89) 事になった、勉強がおもしろいと思った、という記憶に残っている授業がありますか。
- 90) 学校で日々の授業や活動の中で、自分は人間として成長している、少し大人になれたなど、感じるがありますか。
- 91) いままでの人生で、心から感動したことがありますか。（小説、映画、ドラマ、マンガ、体験、音楽、芸術、スポーツなど）

いじめと対人ストレス

- 51) 仲間はずれができて、本当は気がすまないのに、友だちの意見に合わせたり、いっしょに行動したりすることがありますか。
- 52) 仲のいい友だちから、自分がかまわれているか、つい気になってしまうことがありますか。
- 53) 書いていた友だちから、思いもよらぬ言葉を聞かされたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたことがありますか。
- 56) 自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることがありますか。
- 57) クラスや部活で、準備がされたり、からかわれたり、いやなことをしつこく言われたりすることがありますか。
- 58) クラスや部活で、無視されたり、かたがで悪口を言われたり、物をかくす・よこすなどの、いやがらせを受けたりすることがありますか。
- 59) ネット上やウェブサイトでの書き込みで、ひどいことを書かれ、傷ついたことがありますか。
- 61) いじめを受けたり聞いたりして、心を痛めることがありますか。
- 62) クラスの友だちから、いじめのさそいを受けたことがありますか。（メールでのさそいも含みます）
- 63) クラスや友だちの話題についていくのが大変で、自分より知らない話題が出てくると不安だと、感じることがありますか。
- 64) 同級生や上級生、他校の人などから、いやなことを無理やりさせられたり、ひどいらいぼうを受けたりすることがありますか。
- 65) 同級生や上級生、他校の人などから、お金や物を持って来るように言われることがありますか。
- 69) イライラして家の人とぶつかったりすることがありますか。

学級の絆

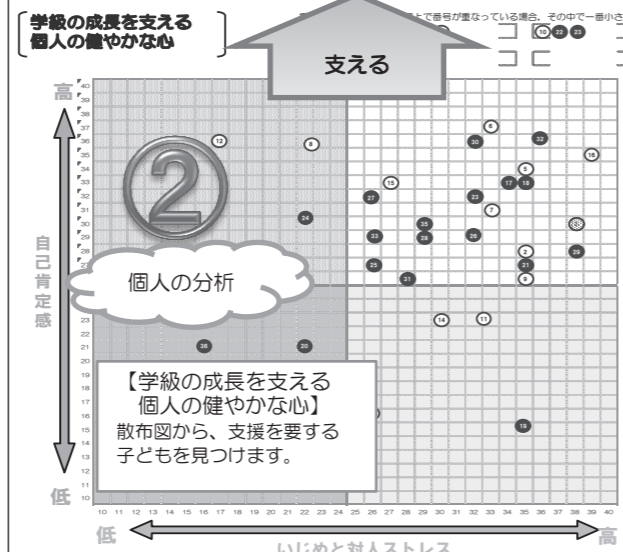
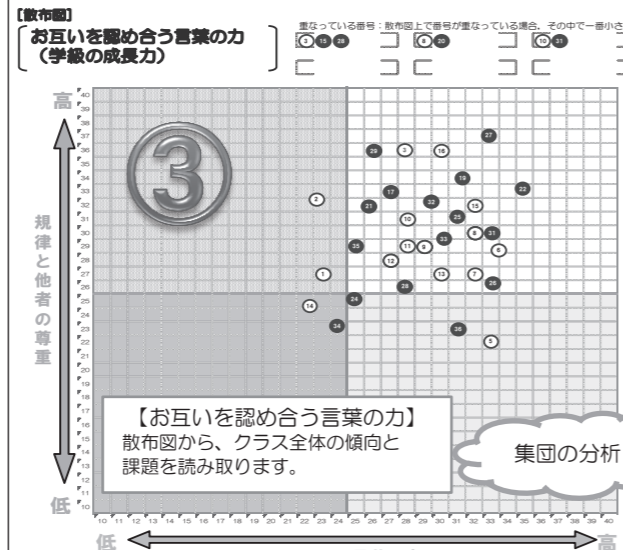
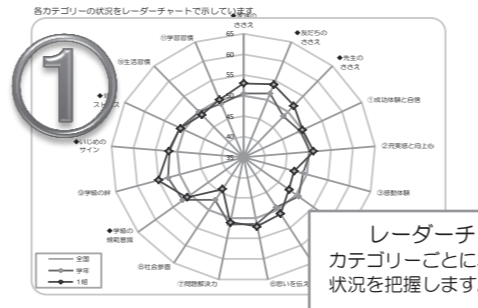
- 36) あなたのクラスには、リーダーにふさわしい、みんながよりにしている人がいますか。
- 38) あなたのクラスには、いいところがあると思いますか。
- 34) 球技大会やクラスの発表会などがあるとき、あなたのクラスはもりもりと盛り上がりますか。
- 35) クラスの中で、だれかがかまっているとき、みんなで、その人を助けてあげよう、ほめてあげようとするふんいきが、あなたのクラスにはありますか。
- 39) あなたは、クラス委員の、一人ひとりのいいところを、言葉にして言うことができますか。
- 40) 今のクラスが好きですか。

この帳票は、学級経営の視点から、いじめなど人間関係の悩みを抱える子どもを見つけたり、学級の現状や課題とその成長力を分析したりするための資料です。

左には、散布図の категорияに属する質問項目を示しております。右にある分析の流れに沿って、個人や集団に視点を変えながら、クラス全体の状況を把握することができます。

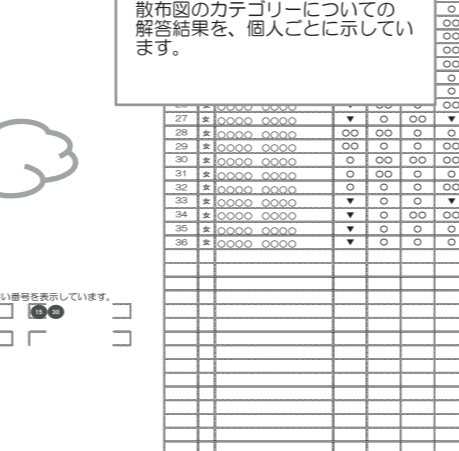
平成24年度 1-Check
◎クラスの概要

	全国	学年		1組		
		前年度	標準スコア	前年度	標準スコア	
自己認識	◆家族のきこえ	82.4	83.1	50.4	82.0	53.0
	◆友だちのきこえ	77.8	80.5	51.7	76.4	54.0
	◆先生のきこえ	70.2	87.7	48.5	68.3	52.0
	① 成功体験と自信	77.4	76.4	49.4	75.5	50.0
	② 充実感と向上心	86.7	87.2	50.3	85.0	51.0
社会性	③ 感動体験	67.4	65.8	49.1	65.7	47.0
	④ 他者からの評価	58.1	59.1	50.7	56.0	48.0
	⑤ 規範意識	80.7	79.8	49.2	79.5	51.0
	⑥ 思いを伝える力	70.6	72.4	51.4	71.3	52.0
	⑦ 問題解決力	70.5	72.7	51.5	69.7	51.0
学級環境	⑧ 社会学習	76.1	72.0	52.1	69.8	51.0
	⑨ 学級環境	51.8	80.7	55.0	51.1	75.3
生活・学習習慣	⑩ 生活習慣	41.8	41.7	49.9	40.2	49.0
	⑪ 学習習慣	48.6	47.7	49.0	45.4	50.0
	平均	71.6	72.1	50.4	70.1	51.0



名簿
散布図の категорияについての解答結果を、個人ごとに示しています。

学級番号	氏名	性別	年齢	規律と他者の尊重	クラスの言葉の力	自己肯定感	いじめと対人ストレス	学級の絆
1	男	○	○	○	○	○	○	○
2	男	○	○	○	○	○	○	○
3	男	○	○	○	○	○	○	○
4	男	○	○	○	○	○	○	○
5	男	○	○	○	○	○	○	○
6	男	○	○	○	○	○	○	○
7	男	○	○	○	○	○	○	○
8	男	○	○	○	○	○	○	○
9	男	○	○	○	○	○	○	○
10	男	○	○	○	○	○	○	○
11	男	○	○	○	○	○	○	○
12	男	○	○	○	○	○	○	○
13	男	○	○	○	○	○	○	○
14	男	○	○	○	○	○	○	○
15	男	○	○	○	○	○	○	○
16	男	○	○	○	○	○	○	○
17	男	○	○	○	○	○	○	○
18	男	○	○	○	○	○	○	○
19	男	○	○	○	○	○	○	○
20	男	○	○	○	○	○	○	○
21	男	○	○	○	○	○	○	○
22	男	○	○	○	○	○	○	○
23	男	○	○	○	○	○	○	○
24	男	○	○	○	○	○	○	○
25	男	○	○	○	○	○	○	○
26	男	○	○	○	○	○	○	○
27	男	○	○	○	○	○	○	○
28	男	○	○	○	○	○	○	○
29	男	○	○	○	○	○	○	○
30	男	○	○	○	○	○	○	○
31	男	○	○	○	○	○	○	○
32	男	○	○	○	○	○	○	○
33	男	○	○	○	○	○	○	○
34	男	○	○	○	○	○	○	○
35	男	○	○	○	○	○	○	○
36	男	○	○	○	○	○	○	○



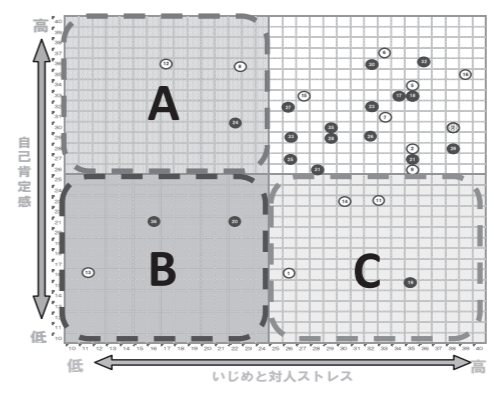
分析の流れ

① ◆レーダーチャートで、どのカテゴリーが良く、どのカテゴリーに課題があるのか、といったクラスの状況を把握します。

② ◆②の散布図から、いじめがないか、悩みを抱えている子はだれか、自分を認められない子どもがいないか等、子ども一人一人の状況やクラスの心の安全性を確認します。

③ ◆③の散布図から、相手の考えや立場を尊重した上で自己発信できる力が、クラス全体として育っているかを確認します。

④ ◆「学級の絆」の度数分布表から、子どもたちが、自分のクラスのことを好きかどうか、楽しいクラスだと思っているか、その度合いを確かめます。



点線の内側が、支援を要する可能性があるラインのめやすです。

- ◆A: 自己肯定感が高いが、いじめなど人間関係の悩みを抱えている可能性があるグループ。
- ◆B: 自己肯定感が低く、いじめなど人間関係の悩みを抱えている可能性が高い、要支援のグループ。
- ◆C: 人間関係は良好だが、自己肯定感が低いグループ。

※気になる子どもに関しては、個別回答結果一覧で詳しい結果を確認します。

